（様式2）

令和7年度　学校園評価シート

学校園名	加古川市立別府町幼稚園

1　教育目標　　心豊かに学びあい　育ちあうこどもの育成

2　基本方針

基本的生活習慣の確立と情緒の安定を図る。
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を考慮して指導を行い、幼児が主体的に遊びを展開できるような環境を構成する。
幼児の特性や発達段階に応じた教育的ニーズを把握し、一人一人に応じた支援・指導を行う。

3　指導目標

心も体も健やかで明るい子　　思いやりがあり　心の優しい子　　様々な経験を通して　主体的に遊ぶ子
自分の思いを伝え　素直に表現する子　　感じる心　考える力がある子

評価基準
A:できている　　B:だいたいできている　　C:あまりできていない　　D:できていない　　E：わからない

重点目標	評価項目	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ（関係者評価）	達成状況
①基本的生活習慣の確立を図る。	◎元気に挨拶をしたり、身の回りのことを自分でしようとしたりしているか。 ◎人の話を聞く大切さに気付いているか。	B	・年間を通して継続してきた「あいさつ運動」により、朝の挨拶が定着し、明るい雰囲気の中で一日を始められるようになってきた。今後も教職員が率先して温かい挨拶を行い、気持ちの良い挨拶が自然に交わされる環境づくりを継続する。 ・話を聞く姿勢には課題が見られる。自分の思いを伝える経験を大切にしながら、相手の気持ちを理解しようとする関わりを意識的に積み重ねていく。	・こどもたちは元気に挨拶を交わしており、日頃の教職員の丁寧が関わりがその育ちにつながっていると評価できる。	A
②道徳性の芽生えを培う。	◎遊びや活動を通して友達の良さに気付き、自分も相手も大切にし認め合う心が育っているか。	B	・支援を要する幼児が増加する中、一人一人の良さや頑張りを認め合う関わりを大切にしてきた。その結果、互いの違いを受け入れようとする姿が育ちつつある。今後も個に応じた支援の充実を図り、全ての幼児が安心して自己発揮できる環境づくりを推進する。	・行事や日常の様子から、こども同士が自然に助け合う姿が見られる。 ・いじめ未防止の観点からも、幼児期から他者を尊重する心を育む取り組みは重要であり、今後も継続が望まれる。	B
③思いやりの心をもち、自立と協同の態度を培う。	◎親子・異年齢児・地域とのさまざまな関わりの中で愛情や信頼感、見守られている安心感を感じ、自分を大切に思う気持ちや自信が育っているか。	B	・得意なことに自信をもつ姿が見られる一方で、苦手意識のある活動に対して消極的になる傾向が見られる。小さな成功体験を積み重ねる支援を通して、挑戦する気持ちややり遂げる力を育む教育・保育を充実させていく。	・難しい内容も含まれるが、継続的で丁寧な関わりの積み重ねが成果として表れていると考えられる。	B
④小学校教育・地域との連携を図る。	◎小学校や地域の方など、縦のつながりや地域の教育力を活かすことができたか。	A	・4歳児が統合園へ週1回の定期的な登園や小学校就学を見据えた交流・情報共有を計画的に行い、支援体制の充実を図ってきた。今後も関係機関との連携を強化し、継続的な支援につなげる体制を整える。 ・地域の協力により多様な体験活動を実施することができた。今後も地域との連携を大切にし、幼児の豊かな学びの機会を確保していく。	・統合による環境変化を見据えた活動や小学校との接続を意識した取り組みが計画的に実施されており、保護者の安心感につながっていると評価できる。	A
⑤職員の資質向上を目指す。	◎職員同士が園内で遊びや活動の連携、幼児についての共通理解に努め、幼児がやってみようとする保育に努めることができたか。	B	・幼児が主体的に遊び込める環境づくりに努めてきたが、教職員間で経験や保育への思いに差が見られる。研修や協議の機会を充実させ、援助の在り方や環境構成について共通理解を図ることで、保育の質のさらなる向上に努める。	・こどもの育ちを第一に考えた教職員の姿勢が伝わっており、職員間の連携も概ね図られていると評価できる。	A